

高等学校 令和7年度（1 学年） 教科 工業 科目 工業技術基礎

教 科： 工業 科 目： 工業技術基礎

単位数： 3 単位

対象学年組：第 1 学年 I 組～ 組

教科担当者：

使用教科書：（ 工業技術基礎 ）

教科 工業 の目標：

【知 識 及 び 技 能】 インテリアの基礎的な知識や技術を習得し、作業工程を把握して安全に作業が出来るようになる

【思考力、判断力、表現力等】 自ら課題を発見し、自分の力で解決することが出来るようにする

【学びに向かう力、人間性等】 インテリアに関する基礎的な知識や技術の向上を目標として、インテリア産業の発展に主体的かつ協働的に取り組む

科目 工業技術基礎 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
インテリアの基礎的な知識や技術を習得できおり、各自テーマ、作品の決定、設計、制作研究、作品の完成までの工程を把握して作業を進め、全般にわたり安全に作業できる。	自ら課題を発見し、自分の力で解決することができる。	インテリアに関する技術の向上を目指して自ら学び、インテリア産業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	・室内空間に用いる「エレメント」について調査後、それぞれのデザインを考え、実際のスケール及び制作可能な作品なる能力を身につける。	・目的、用途を明確にし、アイデアを生み出す学習	・アイデアについて、基礎的な知識・技能を習得し、表現方法について理解できる。 ・使用場所、スケール等を考えることが出来る。	○	○		9
	・木工具（鋸・鑿）を安全に使え、工具管理を身につける。 ・制作課題の墨付けを身につける。 ・図面に基づき、木工仕口加工を寸法通り行う技術を身につける。	・手加工（ほぞ加工班）の学習 ・手加工（相欠き班）の学習	・安全第一に作業出来き、基本的な工具の使い方を習得し、主体的に取り組むことが出来る。 ・加工箇所の精度が出来ている。 ・期限を守っていることが出来る。	○	○	○	9
	・模型・原寸図で制作するものが分かるようにする能力を身につける。 ・原寸図を製図規則に従って制作する技術を身につける。	・スツール・灯りの模型制作 ・原寸図を製作	・模型・原寸図を制作する過程を踏まえ、的確表現が出来ている。 ・期限を守っていることが出来る。	○	○	○	9
	・レポートを作成にあたり、PCのソフトを活用する技術を身につける。	・スツール・照明についての市場調査を行い、レポート作成を行う学習	・PCのソフトを使い、レポートをわかりやすく作成することが出来る。 ・期限を守っていることが出来る。	○		○	3
2 学 期	・木工具（鋸・鑿等）を安全に使え、工具管理を身につけ、制作課題の墨付け技術を身につける。 ・木工仕口加工を設計寸法を確認しながら行うことを身につける。 ・加工手順、工程管理を身につける。	・作品制作（3班編成） （洋風照明・和風照明・スツール） ・自分がデザインした作品の原寸図をもとに安全に木工加工を行う学習	・安全第一に作業が出来き、工具の使い方を習得し、主体的に取り組むことが出来る。 ・加工箇所の精度が出来ている。 ・作業の正しい手法で能率よく進めることが出来る。	○	○	○	45
	・製図規則に従って制作する技術を身につける。	・意匠図の作図	・作品・原寸図をもとに、製図規則に従って的確表現が出来ている。	○	○	○	6
3 学 期	・着色の作業を身につける。 ・塗装方法を理解し、作業の方法を身につける。	・自分がデザインした作品（スツール・洋風照明・和風照明）の仕上げ工程（着色・塗装）行う学習	・安全第一に作業が出来き、基本的な器具の使い方を習得し、作業の正しい手法で能率よく進めることが出来る。 ・仕上げがきれいに出来ている。 ・期限を守っていることが出来る。	○	○	○	15
	・プレゼンテーションについて基礎的な知識・技能を身につける。 ・自分の作品について、作品説明を発表する技術を身につける。 ・プレゼンテーションボードを作成にあたり、PCのソフトを活用する技術を身につける。	・スツール・照明のプレゼンテーションについての学習	・学年のまとめとして、プレゼンテーションについて基礎的な知識・技能を習得し、インテリア産業の発展に主体的かつ協働的に取組もうとしている。 ・期限を守っていることが出来る。	○	○	○	21
							合計 117

年間授業計画 新様式例

高等学校 令和7年度（1学年用） 教科 工業（インテリア） 科目 インテリア実習

教科：工業（インテリア） 科目：インテリア実習 単位数：3 単位

対象学年組：第1学年 インテリア科 2パート・2サイクル

教科担当者：

使用教科書：（ ）

教科 工業（インテリア） の目標：

【知識及び技能】 インテリアの基礎的な知識や技術を習得し、作業工程を把握して安全に作業ができるようにする

【思考力、判断力、表現力等】 自ら課題を発見し、自分の力で解決することができるようにする

【学びに向かう力、人間性等】 インテリアに関する基礎的な知識や技術の向上を目指して、インテリア産業の発展に主体的かつ協働的に！

科目 インテリア実習 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
・インテリアの技術に関する実際の作業に即して総合的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする	・インテリアの技術に関する課題を発見し、インテリアに関わる者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う	・インテリアに関する技術の向上を目指して自ら学び、インテリア産業の発展に主体的かつ協働的に取組む態度を養う

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	・用具の使い方についての学習 ・構図・構成についての学習 ・ものの見方・考え方についての学習 の特性を習得できるようにする。	鉛筆デッサンによる 描写表現 ・ 平面構成による デザイン感覚養成 ・ パソコンによる デザイン操作と感覚養成	・用具の使い方・構図・構成に関する基礎的な知識と技能を習得し、ものの見方・考え方について理解できる。	○	○		10
	・基礎的な表現方法を習得できるようにする。 ・講評などを通して、作品を検討し合い、様々な伝達表現について理解できるようにする。		・表現及び伝達に関する基礎的な知識・技能を習得し、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	○	○	○	12
	・用具やパソコンの使い方についての学習 ・構図・構成についての学習 ・ものの見方・考え方についての学習		・用具の使い方・構図・構成に関する基礎的な知識と技能を習得し、ものの見方・考え方について理解できる。	○	○		10
	・基礎的な表現方法の学習 ・講評（伝達表現の基礎）		・表現及び伝達に関する基礎的な知識・技能を習得し、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	○	○	○	10
2 学 期	・アイデアの出し方・考え方についての学習 ・表現方法についての学習	鉛筆デッサンによる 描写表現 ・ 平面構成による デザイン感覚養成 ・ パソコンによる デザイン操作と感覚養成	・アイデアの出し方・考え方に関する基礎的な知識・技能を習得し、表現方法について理解できる。	○	○		10
	・構成表現の効果についての学習 ・構成の仕上げについての学習		・構成表現及び仕上げに関する基礎的な知識・技能を習得し、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	○	○	○	12
	・アイデアの出し方・考え方についての学習 ・表現方法についての学習		・アイデアの出し方・考え方に関する基礎的な知識・技能を習得し、表現方法について理解できる。	○	○		13
	・構成表現の効果についての学習 ・構成の仕上げについての学習		・構成表現及び仕上げに関する基礎的な知識・技能を習得し、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	○	○	○	10
3 学 期	・レタリングと構成、パソコン造形描画操作についての学習（平面表現） ・プレゼンテーションについての学習（造形表現）	パソコンによる 基礎造形描画操作技術の習得 ・ プレゼンテーション	・レタリングと構成、造形描画制作、及びプレゼンテーションに関する基礎的な知識・技能を習得し、表現方法について理解できる。	○	○		10
	・レタリングと構成、パソコン造形描画操作についての学習（平面表現） ・プレゼンテーションについての学習（造形表現）		・レタリングと構成、造形描画制作、及びプレゼンテーションに関する基礎的な知識・技能を習得し、表現方法について理解できる。	○	○		10
	・レタリングと構成、パソコン造形描画操作についての学習（平面表現） ・プレゼンテーションについての学習（造形表現）		・学年のまとめとして、レタリングと構成、造形描画操作、及びプレゼンテーションについて基礎的な知識・技能を習得し、インテリア産業の発展に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	○	○	○	10
							合計 117

年間授業計画 新様式例

高等学校 令和7年度（1学年用） 教科 工業（インテリア） 科目 インテリアエレメント生産

教科：工業（インテリア） 科目：インテリアエレメント生産 単位数：2 単位

対象学年組：第1学年 インテリア科

教科担当者：

使用教科書：（インテリアエレメント生産）

教科 工業（インテリア） の目標：

【知識及び技能】 インテリアの基礎的な知識や技術を習得し、作業工程を把握して安全に作業ができるようにする

【思考力、判断力、表現力等】 自ら課題を発見し、自分の力で解決することができるようにする

【学びに向かう力、人間性等】 インテリアに関する基礎的な知識や技術の向上を目指して、インテリア産業の発展に主体的かつ協働的に取

科目 インテリアエレメント生産 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
・インテリアエレメントの生産について住生活を踏まえて理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする	・インテリアエレメントの生産に関する課題を発見し、技術者として科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う	・住生活の変化に対応したインテリアエレメントを生産する力の向上を目指して自ら学び、インテリア産業の発展に主体的かつ協働的に取組む態度を養う

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	・インテリア材料の（木材・木質材料・金属・テキスタイル・プラスチック等）の特性を習得できるようにする。	・インテリア材料及加工 ・木材と木質材料 ・木材の性質	・インテリア材料に関する基礎的な知識と技能を習得し、エレメントを生産についての理解度。	○	○		6
	・木材・木質材料の性質および加工法の基礎を習得し、インテリアエレメントの生産ができるようにする。	・木質材料 ・木材加工の基礎	・木材・木質材料の性質および加工法の基礎的な知識・技能を習得し、インテリアエレメントの生産ができる。	○	○		7
	定期考査 ・インテリア材料、及び木材・木質材料の性質および加工法を理解する	・インテリア材料、及び木材・木質材料の性質および加工法について主体的かつ協働的にまとめ、取	・インテリア材料、及び木材・木質材料の性質および加工法についてまとめ、主体的かつ協働的に取り組もうとしている	○	○	○	1
	・人体系家具、準人体系家具、収納系家具等の機能分類と様式、材料、構造、システムを習得できるようにする	インテリアエレメントの構造 ・家具の分類	・人体系家具、準人体系家具、収納系家具の機能分類と様式、材料、構造、システムについての知識・技能を習得し、インテリアエレメントの生産について理解できる。	○	○		8
	・それぞれの様式、材料、構造、システムについて自ら学び、インテリア産業の発展に主体的かつ協働的に取り組めるようにする。	・椅子ベッド ・机テーブル ・収納家具	・それぞれの様式、材料、構造、システムについて知識・技術を習得し、インテリア産業の発展に主体的かつ協働的に取り組めるようにする。	○	○	○	6
	定期考査 ・1学期の内容をまとめ、理解できるようにする。	・1学期のまとめについて主体的かつ協働的にまとめ、取り組む	・1学期のまとめについて、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	○	○	○	1
2 学 期	・空間部の遮断と開閉・採光・換気・音・熱等についてインテリアの空間での活用と、その役割を習得できるようにする。	・建具の分類 ・内部用建具 ・外部用建具	・空間部の遮断と開閉・採光・換気・音・熱等についての基礎的な知識・技能を習得し、インテリアの空間での活用と役割を理解できる。	○	○		7
	・接着の基礎と木材の接着性に関わる条件を学習し、家具の接着剤の性能と使用法を習得できるようにする。	・接着 ・接着の基礎	・接着の基礎と木材の接着性について知識・技能を習得し、家具制作における接着剤の性能と使用法について理解できる。	○	○		7
	定期考査 ・インテリア空間、及び接着剤の性能と使用法を習得できるようにする。	・インテリアの空間、及び接着剤の性能と使用法について主体的かつ協働的にまとめ、取り組む	・インテリアの空間、及び接着剤の性能と使用法についてまとめ、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	○	○	○	1
	・接着の基礎と木材の接着性に関わる条件を学習し、家具の接着剤の性能と使用法を習得できるようにする。	・接着剤 ・接着用具	・接着の基礎と木材の接着性に関わる条件を学習し、家具の接着剤の性能と使用法を習得できる。	○	○		8
	・表面処理（塗装）の基礎と被塗物の塗装に関わる条件を学習し、家具への塗装適性と使用法を習得できるようにする。	・表面処理 ・塗装 ・塗装の種類	・表面処理（塗装）の基礎と被塗物の塗装に関わる条件を学習し、家具への塗装適性と使用法を習得できる。	○	○		6
	定期考査 ・1・2学期の内容をまとめ、理解できるようにする。	・1・2学期のまとめについて主体的かつ協働的にまとめ、取り組む	・1・2学期のまとめについて、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	○	○	○	1
3 学 期	・表面処理（塗装）の基礎と被塗物の塗装に関わる条件を学習し、家具への塗装適性と使用法を習得できるようにする。	・塗装用具 ・塗装以外の表面処理	・表面処理（塗装）の基礎と被塗物の塗装に関わる条件を学習し、家具への塗装適性と使用法を習得できる。	○	○		6
	・木材加工や金属加工の代表的な工作機械の基本を学習し、安全作業等の応用も含め学習できるようにする。	・生産技術 ・木材加工用機械 ・生産計画	・木材加工や金属加工の代表的な工作機械の基本を学習し、安全作業等の応用も含め習得できる。	○	○		8
	・製品の生産に関わる計画、管理、工程、安全等の基礎を習得できるようにする。	・工程管理 ・家具生産の工程	・製品の生産に関わる計画、管理、工程、安全等について知識・技能を習得し、インテリア産業の発展に主体的かつ協働的に取組もうとしている。	○	○	○	6
	定期考査 ・学年のまとめの内容をまとめ、理解できるようにする。	・学年のまとめについて主体的かつ協働的にまとめ、取り組む	・学年のまとめについて、主体的かつ協働的に取り組もうとしている。	○	○	○	合計
							79

[illegible]

	具体的な指導目標	指導項目・内容	評価基準	知	思	態	配当 時数
1 学期	A単元 平面図 在来軸組構法の小住宅を対象にして1/50スケールで平面図を書くことで建築製図の基本を学ぶ。	・建築製図の概略 家具製図との違い ・縮尺の違いによる表現の違いについて ・組立基準面の考え方について ・各種材料の表現について ・大壁・真壁等の構造の違いについて	建築製図と家具製図の違いを踏まえた上で平面図を理解しながら書くことができたかどうか	○	○	○	10
	B単元 配置図 配置図を書くことで、土地の上記の仕方、土地と建物の関連性を学ぶ。	・土地の形や広さ、方位の表現について ・建ぺい率、容積率、用途地域について ・外構とはなにか	土地と建物の関連を理解したうえで配置図を書けたかどうか。	○	○	○	12
	C単元 かなばかり図 平面図と共に重要なかなばかり図を書くことで、在来軸組構法による小住宅の構造へ理解を深める。また建築に関わる各種材料を知る。	・モルタル等建築材料の表現について ・構造材、補助構造材、化粧材のちがい ・床組や小屋組みの構造について ・根太等の配置や間隔について ・小屋梁とはなにか ・屋根の拭き方について	木造建築物の構造やそこで使われる材料を理解しながらかなばかり図を書けているかどうか。	○	○	○	10
	D単元 立面図・断面図 立面図と断面図を書くことで、製作に必要な図面との違い、設計意図を表現することの重要性を学ぶ。	・勾配のある屋根の書き方 ・開口部の構と書き方 ・掃き出し窓と腰窓、ひじ掛け窓の特徴 ・瓦棒等、間隔のある部材の書き方 ・高低差のある床の表現 ・和室の造作について	製作に必要な図面との違いを理解しながら立面図と断面図を書けているかどうか。	○	○	○	10
2 学期	E単元 室内透視図 室内空間のデザインを表現するために有効な透視図を学ぶ。	・LDKの平面レイアウトについて ・一点透視図の作図法について ・色鉛筆による着色について	一点透視図法の基礎を理解しながら完成予想図を書けているかどうか。	○	○	○	10
	A単元 平面図 在来軸組構法の小住宅を対象にして1/50スケールで平面図を書くことで建築製図の基本を学ぶ。	・建築製図の概略 家具製図との違い ・縮尺の違いによる表現の違いについて ・組立基準面の考え方について ・各種材料の表現について ・大壁・真壁等の構造の違いについて	建築製図と家具製図の違いを踏まえた上で平面図を理解しながら書くことができたかどうか	○	○	○	10
	B単元 配置図 配置図を書くことで、土地の上記の仕方、土地と建物の関連性を学ぶ。	・土地の形や広さ、方位の表現について ・建ぺい率、容積率、用途地域について ・外構とはなにか	土地と建物の関連を理解したうえで配置図を書けたかどうか。	○	○	○	12
3 学期	C単元 かなばかり図 平面図と共に重要なかなばかり図を書くことで、在来軸組構法による小住宅の構造へ理解を深める。また建築に関わる各種材料を知る。	・モルタル等建築材料の表現について ・構造材、補助構造材、化粧材のちがい ・床組や小屋組みの構造について ・根太等の配置や間隔について ・小屋梁とはなにか ・屋根の拭き方について	木造建築物の構造やそこで使われる材料を理解しながらかなばかり図を書けているかどうか。	○	○	○	13
	D単元 立面図・断面図 立面図と断面図を書くことで、製作に必要な図面との違い、設計意図を表現することの重要性を学ぶ。	・勾配のある屋根の書き方 ・開口部の構と書き方 ・掃き出し窓と腰窓、ひじ掛け窓の特徴 ・瓦棒等、間隔のある部材の書き方 ・高低差のある床の表現 ・和室の造作について	製作に必要な図面との違いを理解しながら立面図と断面図を書けているかどうか。	○	○	○	10
	E単元 室内透視図 室内空間のデザインを表現するために有効な透視図を学ぶ。	・LDKの平面レイアウトについて ・一点透視図の作図法について ・色鉛筆による着色について	一点透視図法の基礎を理解しながら完成予想図を書けているかどうか。	○	○	○	10 合計 117

高等学校 令和7年度（2学年用） 教科 工業（インテリア） 科目 インテリア実習（木材加工 A・B）

教 科： 工業（インテリア） 科 目： インテリア実習（木材加工 A・B） 単位数： A：2単位 B：3単位 （前後期交代で通年では2.5単位となる）

対象学年組：第 2 学年 インテリア科

教科担当者：

使用教科書：（ 木材加工系実技教科書 ）

教科 工業（インテリア） の目標：

【知 識 及 び 技 能】 インテリアの基礎的な知識や技術を習得し、作業工程を把握して安全に作業ができるようにする

【思考力、判断力、表現力等】 自ら課題を発見し、自分の力で解決することができるようにする

【学びに向かう力、人間性等】 インテリアに関する基礎的な知識や技術の向上を目指して、インテリア産業の発展に主体的かつ協働的に取

科目 インテリア実習（木材加工 A・B） の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
・インテリアの技術に関する実際の作業に即して総合的に理解するとともに、関連する技術を身に付ける	・基礎的な木材加工課題を通して、インテリアの技術に関する課題を発見し、インテリアに関わる者として木材加工技術の進展に対応し解決する力を養う	・インテリアに関する技術の向上を目指して自ら学び、インテリア及び木材加工産業の発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	・基礎的な材料木取り方法についての学習 ・墨付け、及び工具の使用方法についての学習	引き出し付箱の製作	・材料木取り方法と基礎的技術を習得させる。 ・墨付け方法と基礎的技術を習得させる。	○	○		12
	・基礎的な部品加工方法の学習		・部品加工方法と基礎的技術を習得させる。	○	○	○	12
	・基礎的な材料木取り方法についての学習 ・墨付け、及び工具の使用方法についての学習		・材料木取り方法と基礎的技術を習得させる。 ・墨付け方法と基礎的技術を習得させる。	○	○		12
	・基礎的な部品加工方法の学習		・部品加工方法と基礎的技術を習得させる。	○	○	○	12
2 学 期	・基礎的な木材加工、及び仮組み方法についての学習 ・基礎的な調整・接着方法についての学習 ・基礎的な工具管理についての学習	引き出し付箱の製作 ・ 箱づくりのための 工具管理	・本体仮組み方法と基礎的技術を習得させる。 ・調整・接着方法と基礎的技術を習得させる。 ・工具管理の基礎的技術を習得させる。	○	○		15
	・仕上げ、本体組立てについての学習 ・基礎的な引き出しの加工・調整・接着方法についての学習		・仕上げ、本体完成について習得させる。 ・引き出し加工・調整・接着方法と基礎的技術を習得させる。	○	○	○	15
	・基礎的な木材加工、及び仮組み方法についての学習 ・基礎的な調整・接着方法についての学習 ・基礎的な工具管理についての学習		・本体仮組み方法と基礎的技術を習得させる。 ・調整・接着方法と基礎的技術を習得させる。 ・工具管理の基礎的技術を習得させる。	○	○		15
	・仕上げ、本体組立てについての学習 ・基礎的な引き出しの加工・調整・接着方法についての学習		・仕上げ、本体完成について習得させる。 ・引き出し加工・調整・接着方法と基礎的技術を習得させる。	○	○	○	15
3 学 期	・基礎的な素地調整・着色についての学習	引き出しの塗装	・素地調整・着色の基礎的技術を習得させる。	○	○		13
	・基礎的な下塗り・中塗りについての学習		・下塗り・中塗りの基礎的技術を習得させる。	○	○		13
	・基礎的な仕上げ塗りにについての学習 ・レポートとして課題制作のまとめの学習		・仕上げ塗りの基礎的技術を習得させる。 ・レポートを課題としてまとめの学習を習得させる。	○	○	○	10 合計 144

高等学校 令和7年度（2 学年用） 教科 工業（インテリア） 科目 インテリア実習A

教 科： 工業（インテリア） 科 目： インテリア実習A 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 2 学年 インテリア科

教科担当者：

使用教科書：（ ）

教科 工業（インテリア） の目標：

【知 識 及 び 技 能】 水彩絵具による質感表現の描画能力を身に付ける。デザインにおける構成の原理を理解する。

【思考力、判断力、表現力等】 透明水彩の特性を活かして細密に描く。指示要件を満たしてレイアウトする。

【学びに向かう力、人間性等】 デザインに関する基礎的な知識や技術の向上を目指して、インテリア産業の発展に主体的に取り組む

科目 インテリア実習A の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
・水彩絵具を用いて、素材の違いを意識しながら対象を描写する。 ・デザインの構成要素についての用語を理解する。	・指示された様式を守り作品を完成させる。 ・透明水彩を用いて素材の質感を表現する。 ・デザインの構成要素を理解して、造形的に表現する。	・インテリアデザインに関する基礎的な知識や技術の向上を目指して、インテリア産業の発展に主体的に取り組む

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	前期 課題の趣旨（水彩パース製作の前段階としての素材の観察と描写）を理解した上で、適した素材を考えて選定できる。イラストボードに指示通りのレイアウトを行うことができる。	素材表現 ・レタリング ・モチーフとなる素材の収集 ・鉛筆による下描き	・描写に適した素材を選定できているか。 ・指示通りのレイアウトが守られているか。	○	○		6
	水彩絵具の特性を踏まえて、素材の色を再現できる。素材の細かい描写が行える。	素材表現 ・質感（テクスチャ）を観察して描く ・陰影をつけた素材表現 ・水彩絵具による表現	・水彩絵具の特性を理解して質感の表現ができているか。 ・素材の凹凸に配慮しながら、陰影を捉えられているか。	○	○		6
	指定の形式を守って完成させることができる。	素材表現 ・イラストレーションボードに各素材を貼り、完成させる	・指定の形式で完成しているか ・提出時の作品の見せ方に配慮しているか	○	○	○	8
	デザインの構成要素について用語の意味を理解できる。	構成の要素 ・造形表現の原理を学ぶ ・構成の要素による表現：4 種類の要素を切り紙によって製作する	・選択した要素を理解して画面構成がされているか	○	○		6
2 学 期	デザイン用語を理解し、造形的に表現できる。指示通りの画面レイアウトが作成できる。自身の考えを相手に分かりやすく説明することができる。	構成の要素 ・構成の要素による表現：4 種類の要素を切り紙によって製作する ・製作物のプレゼンテーション	・指示通りの画面レイアウトが作成されているか ・制限時間を守って適切な発声・体勢で説明することができたか	○	○	○	6
	後期 課題の趣旨（水彩パース製作の前段階としての素材の観察と描写）を理解した上で、適した素材を考えて選定できる。イラストボードに指示通りのレイアウトを行うことができる。	素材表現 ・レタリング ・モチーフとなる素材の収集 ・鉛筆による下描き	・描写に適した素材を選定できているか。 ・指示通りのレイアウトが守られているか。	○	○		8
	水彩絵具の特性を踏まえて、素材の色を再現できる。素材の細かい描写が行える。	素材表現 ・質感（テクスチャ）を観察して描く ・陰影をつけた素材表現 ・水彩絵具による表現	・水彩絵具の特性を理解して質感の表現ができているか。 ・素材の凹凸に配慮しながら、陰影を捉えられているか。	○	○		8
	指定の形式を守って完成させることができる。	素材表現 ・イラストレーションボードに各素材を貼り、完成させる	・指定の形式で完成しているか ・提出時の作品の見せ方に配慮しているか	○	○	○	8
3 学 期	デザインの構成要素について用語の意味を理解できる。	構成の要素 ・造形表現の原理を学ぶ ・構成の要素による表現：4 種類の要素を切り紙によって製作する	・選択した要素を理解して画面構成がされているか	○	○		8
	デザイン用語を理解し、造形的に表現できる。指示通りの画面レイアウトが作成できる。	構成の要素 ・構成の要素による表現：4 種類の要素を切り紙によって製作する	・指示通りの画面レイアウトが作成されているか	○	○		8
	自身の考えを相手に分かりやすく説明することができる。	・製作物のプレゼンテーション	・制限時間を守って適切な発声・体勢で説明することができたか	○	○	○	6
							合計 78

[illegible]

年間授業計画 新様式例

高等学校 令和7年度（2学年用） 教科 工業（インテリア） 科目 インテリア装備

教 科： 工業（インテリア） 科 目： インテリア装備 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 2 学年 インテリア科

教科担当者：

使用教科書：（ インテリア装備 ）

教科 工業（インテリア） の目標：

【知 識 及 び 技 能】 インテリアの基礎的な知識や技術を習得し、作業工程を把握して安全に作業ができるようにする

【思考力、判断力、表現力等】 自ら課題を発見し、自分の力で解決することができるようにする

【学びに向かう力、人間性等】 インテリアに関する基礎的な知識や技術の向上を目指して、インテリア産業の発展に主体的かつ協働的に！

科目 インテリア装備 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
インテリア装備について室内空間を構成する各部位を踏まえて住生活や工業生産と関連付けて理解するとともに、インテリア空間づくりにおける様々な状況に対応できる技術を身に付ける。	インテリアを構成する各部位やエレメントの材料、構造、施工に着目して、インテリア装備に関する課題を見だし、科学的な根拠に基づき工業技術の進展に対応し解決する力を養う。	インテリア装備の建築物へ施工する力の向上を目指し、生活の変化にともなう建築物やインテリアの立体的な構造、多様なインテリア材料と施工について自ら学ぶ態度や、インテリア産業の発展に主体的にかつ協働的に取り組む態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	・建築物の一般的な構造について構造技術の発達や構造の種類及び構成を理解する。	インテリア装備の概要について ・構造技術の発達 ・構造の種類と構成	・建築物の一般的な構造について構造技術の発達や構造の種類及び構成を理解しているかどうか。	○	○		6
	・建築物の構造のうち、木構造について各部位の構造・構法・材料・加工法について理解する。	木構造について ・地業と基礎 ・軸組 ・床組 ・小屋組 ・枠組壁構法	・建築物の構造のうち、木構造について各部位の構造・構法・材料・加工法について理解しているかどうか。	○	○		7
	定期考査 ・建築構造の種類と構成 ・木構造の各部位の構成	建築構造の種類と構成、木構造の各部位の構成についての理解を主体的かつ共働的に取り組む	建築構造の種類と構成、木構造の各部位の構成についての理解を主体的かつ共働的に取り組めたかどうか。	○	○	○	1
	・建築物の構造のうち、鉄骨構造について各部位の構造・構法・材料・加工法について理解する。	鉄骨構造について ・鋼材の接合 ・基礎 ・骨組 ・耐火被膜	・建築物の構造のうち、鉄骨構造について各部位の構造・構法・材料・加工法について理解しているかどうか。	○	○		8
	・建築物の構造のうち、鉄筋コンクリート構造について各部位の構造・構法・材料・加工法について理解する。	鉄筋コンクリート構造について ・鉄筋コンクリートの構造の特徴 ・材料と施工 ・主体構造 ・鉄筋鉄骨コンクリート構造	・建築物の構造のうち、鉄筋コンクリート構造について各部位の構造・構法・材料・加工法について理解しているかどうか。	○	○	○	6
	定期考査 ・1学期のまとめ	・1学期のまとめについて主体的かつ協働的にまとめ、取り組む	・1学期のまとめについて、主体的かつ協働的に取り組もうとしているか。	○	○	○	1
2 学 期	インテリアの施工において、施工の概要や床の下地、各種仕上げについて構造・構法・材料・加工法を含めて理解する。	インテリアの施工について 施工の概要（躯体・下地・仕上げ） 床の下地と仕上げ ・下地構法 ・張り仕上げ・塗り仕上げ・敷き仕上げ	インテリアの施工において、施工の概要や床の下地、各種仕上げについて構造・構法・材料・加工法を含めて理解しているかどうか。	○	○		8
	インテリアの施工において、壁の下地、各種仕上げについて構造・構法・材料・加工法を含めて理解する。	壁の下地と仕上げについて ・下地構法 ・張り仕上げ ・塗り仕上げ	インテリアの施工において、壁の下地、各種仕上げについて構造・構法・材料・加工法を含めて理解しているかどうか。	○	○		6
	定期考査 ・インテリアの空間、及び接着剤の性能と使用法	・インテリアの空間、及び接着剤の性能と使用法について主体的かつ協働的にまとめ、取り組む	・インテリアの空間、及び接着剤の性能と使用法についてまとめ、主体的かつ協働的に取り組もうとしているか。	○	○	○	1
	インテリアの施工において、天井の種類、各種仕上げについて構造・構法・材料・加工法を含めて理解する。	天井の下地と仕上げについて ・吊り天井 ・直り天井 ・システム天井	インテリアの施工において、天井の種類、各種仕上げについて構造・構法・材料・加工法を含めて理解しているかどうか。	○	○		8
	インテリアの施工において、造作の種類、各種仕上げについて構造・構法・材料・加工法を含めて理解する。	造作について ・和風 ・洋風	インテリアの施工において、造作の種類、各種仕上げについて構造・構法・材料・加工法を含めて理解しているかどうか。	○	○		6
	定期考査 ・1・2学期のまとめ	・1・2学期のまとめについて主体的かつ協働的にまとめ、取り組む	・1・2学期のまとめについて、主体的かつ協働的に取り組もうとしているか。	○	○	○	1
3 学 期	インテリアの施工において、開口部の構造を構法・材料・加工法を含めて理解する。	開口部について ・木構造 ・鉄筋コンクリート構造 ・鋼構造	インテリアの施工において、開口部の構造を構法・材料・加工法を含めて理解しているかどうか。	○	○		6
	インテリアの施工において、階段の構造を構法・材料・加工法を含めて理解する。	階段について ・木製 ・金属製	インテリアの施工において、階段の構造を構法・材料・加工法を含めて理解しているかどうか。	○	○		8
	インテリアの施工において、施工管理を施工管理・工程管理・品質管理に分けて理解する。	施工管理について ・施工管理 ・工程管理 ・品質管理	インテリアの施工において、施工管理を施工管理・工程管理・品質管理に分けて理解しているかどうか。	○	○	○	5
	定期考査 ・学年のまとめ	・学年のまとめについて主体的かつ協働的にまとめ、取り組む	・学年のまとめについて、主体的かつ協働的に取り組もうとしているか。	○	○	○	合計 78

高等学校 令和7年度（2 学年用） 教科 工業（インテリア） 科目 色彩

教 科： 工業（インテリア） 科 目： 色彩 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 2 学年 インテリア科

教科担当者：

使用教科書：（ デザインの色彩 ）

教科 工業（インテリア） の目標：

- 【知 識 及 び 技 能】インテリアの基礎的な知識や技術を習得し、作業工程を把握して安全に作業できるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】色彩の基礎知識を環境に生かすための創意工夫などイメージした世界観から発想や構想を検討できる。
- 【学びに向かう力、人間性等】課題の目的を理解した上で全工程をイメージし、よりよい結果を想像し計画的に制作できる。

科目 色彩 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
インテリア空間における対象や事象を捉える色彩的・構成的な視点について理解を深め、効果的な色彩表現の知識と適切な素材構造の提案ができる。	これまでに学んだ色彩の基礎知識をもとに、環境と色彩の関係に置き換え、表現の意図と創意工夫、デザインの働きなどについて考えとともに、イメージした世界観から発想や構想を練ったり深めたりできる。	課題の目的を的確に理解し、主体的に学習の幅を広げたり、制作手順を考えた上でより良い作品制作に取り組める。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	A単元：色彩と空間表現① 1学年で学んだ色彩論の基礎を理解した上で、実際の空間や環境への展開について、効果を活かしたデザイン提案ができる。	・「色彩効果」で学んだ現象を生かしたデザイン構成を作成 ・デザイン作品のスキャニング ・環境空間の撮影 ・生徒個人使用のパソコン（スマホ端末）を用いて画像合成	・条件にあった色彩構成が作成できている。 ・空間になじんだ画像合成ができている。	○	○	○	11
	B単元：色彩と空間表現② 色彩と空間、環境の中での色彩効果について計画しデザイン制作ができる。	・グラデーションの効果について ・光の変化のある空間での色彩の変化 紙を使った平面構成から、半立体、立体への展開と、空間への影響についての実習	・形態とグラデーションの関係性が効果的に用いられている。 ・作品単体ではなく、周辺環境を考慮したデザイン提案となっている。	○	○	○	11
	C単元：色彩と立体表現① 囲まれた空間や立体造形の観察と色彩空間の表現方法について適度な技術が習得できる。	・立体表現としての陰影と色彩表現についての実習 ・立体表現と質感表現の描写	・目の前にある3次元の造形空間を2次元の中に表現できている。 ・基本的なデッサンの観察の仕方、表現の仕方ができている。	○	○	○	5
2 学 期	D単元：色彩と空間表現③ インスタレーションと色彩表現について考察し表現できる。	・身の回りの空間に色彩表現を施すということについての考察 ・インスタレーションと色彩素材について	・実際の空間における色彩デザインの効果をスタディをとおして考察できている。 ・グループで協力して積極的に作品制作に参加できている。 ・インスタレーションとしての作品と環境の関わりを想像・計画できている。	○	○	○	15
	E単元：色彩と立体表現② 立体造形の素材と環境との関係を考察し、表現することができる。	・文字を奥行きのある立体造形としてデザインし、スケール感を想定して描写する ・立体表現としての陰影と色彩表現について	・立体造形物としての描写ができている。 ・材質を的確に想定し描写できている。 ・スケール感にあった描写ができている。	○	○	○	15
3 学 期	F単元：色光の混色と立体造形 立体造形における光と影の関係を色光の混色から考察し理解する。	・平面から限られた条件で立体造形を展開することで、形態のつながりを意識する。 ・調色照明による色光の混色を行い、立体造形の見え方の変化を体験する。	・無駄のない美しい立体を制作するためのスタディ制作ができている。 ・色光の混色を効果的に利用できている。	○	○	○	9
	G単元：色彩と空間表現④ ・公共空間における色彩空間とディテールの関係を考察し理解する。	・公共通路において人流を促す壁面デザインを制作する。 ・身近な素材を用いてスタディ制作を行う。 ・スタディをもとにデザイン作品を制作する。	・流れをどのように意識させるかが考察できている。 ディテールと色彩を効果的に用いたデザイン提案ができている。	○	○	○	12
							合計 78

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1学期	A単元 暮らしやすい生活環境をめざして	- 少子高齢社会と共生社会への道 - 福祉住環境整備の重要性、必要性 - 在宅生活の維持とケアサービス - 出題頻度説明 - 要点確認 - 過去問題に取り組ませ、解説をおこなう	- テキストや過去問題に主体的に取り組むことができているか。 - 過去問題の結果や、要点の確認結果から、項目の内容を理解できているか。	○	○	○	8
	B単元 健康と自立を目指して	- 高齢者の健康と自立 - 障害者が生活の不自由を克服する道 - 出題頻度説明 - 要点確認 - 過去問題に取り組ませ、解説をおこなう	- テキストや過去問題に主体的に取り組むことができているか。 - 過去問題の結果や、要点の確認結果から、項目の内容を理解できているか。	○	○	○	8
	C単元 バリアフリーとユニバーサルデザイン	- バリアフリーとユニバーサルデザインの考える - 生活を支えるさまざまな用具 - 出題頻度説明 - 要点確認 - 過去問題に取り組ませ、解説をおこなう	- テキストや過去問題に主体的に取り組むことができているか。 - 過去問題の結果や、要点の確認結果から、項目の内容を理解できているか。	○	○	○	6
	D単元 安全・安心・快適な住まい	- 住まいの整備のための基本技術 - 生活行為別に見る安全、安心、快適な住まい - 出題頻度説明 - 要点確認 - 過去問題に取り組ませ、解説をおこなう	- テキストや過去問題に主体的に取り組むことができているか。 - 過去問題の結果や、要点の確認結果から、項目の内容を理解できているか。	○	○	○	10
2学期	E単元 安心できる住生活とまちづくり	- ライフスタイルの多様化と住まい - 安心できる住生活について学習する。 - 安心して暮らせるまちづくり - 地域で取り組む福祉のまちづくりの実例を学習する。 - 出題頻度説明・要点確認 - 過去問題に取り組ませ、解説をおこなう	- テキストや過去問題に主体的に取り組むことができているか。 - 過去問題の結果や、要点の確認結果から、項目の内容を理解できているか。	○	○	○	8
	F単元 福祉住環境演習	- 福祉住環境コーディネーター検定試験事前指導 - 模擬問題演習（問題と解説） - 検定申込の確認をおこなう - 実際の試験に近い問題に取り組みせ、解説をおこなう	- テキストや過去問題に主体的に取り組むことができるか。 - 模擬問題演習の結果から、福祉住環境コーディネーター検定試験の内容の理解しているか。	○	○	○	10
	G単元 福祉住環境演習（調べ学習）	- 検定試験後の自己採点 - 福祉用具の種類と、介護保険で利用できるサービスを、ペア学習で調べる。	福祉住環境コーディネーター検定試験で学習した、福祉用具の種類や介護保険で利用できるサービスを、具体例をあげることができるか。調べ学習に主体的かつ協同的に取り組もうとしているか。	○	○	○	8
3学期	H単元 福祉住環境演習（調べ学習・発表）	- 福祉用具の種類と、介護保険で利用できるサービスを、ペア学習で調べる。 - プレゼンテーション形式にまとめ、発表リハーサルと本番まで一貫して行う。	福祉住環境コーディネーター検定試験に関する知識を習得し、福祉用具の種類と、介護保険で利用できるサービスを具体例をプレゼンテーションできているか。プレゼンテーションに関する技能をいかし、主体的かつ協同的に取り組もうとしているか。	○	○	○	6
	I単元 福祉住環境演習	段差と転倒について住まいの整備のための基本技術を学ぶ。	安全・安心・快適な住まいについての知識を習得することができているか。	○	○	○	8
	J単元 住宅の提案	- 福祉住宅・施設の現状を知る。 - 介護者のいる住宅設計の提案と発表	まとめとして、福祉住環境コーディネーター検定試験で得た知識をいかし、高齢者・障害者への視点を持ちながら設計をおこない、発表することができたか。	○	○	○	6
							合計
							78

工業(インテリア) 科目

单位数: 4 单位

の目標:

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	テーマの設定 初期設計	・家族像、住宅の形式、規模、立地、現代のライフスタイルの傾向からテーマを設定する。 ・提案内容を踏まえた設計図面を作成する。	・市場調査の内容が分かりやすくまとめられているか。 ・課題解決への手法が明確であり、提案されたコンセプト・設計図面が正確であるか。	○	○		20
	スタディ模型製作	・設計図面を1/50スケールのスタディ模型を作成し、設計に整合性が取れているか確認を行う。	・スチレンボードや模型の材料を正確に切断・接着ができているか。 ・設計図面とスタディ模型の提出	○	○		16
	プレゼンテーション	・テーマとその計画について、授業内でプレゼンテーションを行う。	・テーマ・コンセプト、特徴、使用法などを分かりやすくかつ正確に他者に伝達する為の効果的なプレゼンテーション方法が理解できているか。	○	○	○	20
	テーマの設定・決定 図面作成	・スタディ模型からの考察をもとに、再度研究テーマや設計を再検討する。 ・提案内容を踏まえた設計図面を再設計する。	・スタディ模型から再検討を行い、適切に修正ができているか。	○	○		16
2 学 期	1/30スケール模型の作成	・提案内容を提示するための1/30スケール模型の作成をする。	・インテリアやエクステリア、その素材や計画にも考慮して模型の作ができているか。 ・スチレンボードや模型の材料を正確に切断・接着ができているか。	○	○		20
	1/30スケール模型の作成	・提案内容を提示するための1/30スケール模型の作成をする。	・インテリアやエクステリア、その素材や計画にも考慮して模型の作ができているか。 ・スチレンボードや模型の材料を正確に切断・接着ができているか。		○	○	16
	1/30スケール模型の完成	・提案内容を提示するための1/30スケール模型を提出する。	・インテリアやエクステリア、その素材や計画にも考慮して模型の作製ができているか。 ・模型提出		○	○	16
	プレゼンテーションボードの作成	・提示したプランをプレゼンボードにレイアウトする。 ・デジタルデータを活用し、DTP作業を行いプレゼンテーションボードを作製・印刷をする。	・テーマ・コンセプトなどを分かりやすくかつ正確に他者に伝達することが理解できているか。 ・作成に必要なDTP作業ができているか。	○	○		12
3 学 期	プレゼンテーション用スライドの作成	・デジタルデータを活用し、DTP作業を行いプレゼンテーションスライドを作製する。 ・効果的な展示計画・プレゼンテーションを行う。	・テーマ・コンセプトなどを分かりやすくかつ正確に他者に伝達することが理解できているか。 ・作成に必要なDTP作業ができているか。	○	○		16
	プレゼンテーション準備	・制作した模型について、テーマ・コンセプトなどを分かりやすく他者に伝達できるプレゼンテーション準備を行う。	・テーマ・コンセプトなどを分かりやすくかつ正確に他者に伝達する為の効果的なプレゼンテーションが理解できているか。		○	○	4
	プレゼンテーション	・制作した模型について、テーマ・コンセプトなどを分かりやすく他者に伝達できるプレゼンテーション準備を行う。 ・卒業展示の為の展示計画を行い、展示方法などを工夫して提案する。	・テーマ・コンセプトなどを分かりやすくかつ正確に他者に伝達する為の効果的なプレゼンテーションができるか。 ・卒業展示の方法など主体的に検討できているか。	○	○	○	4 合計 156

工業(インテリア) 科目

单位数: 4 单位

インテリア科

教科担当者:

使用教科書: ()

教科 工業(インテリア)

【知識及び技能】

【思考力、判断力、表現力等】

の目標:

インテリアの基礎的な知識や技術を習得し、作業工程を把握して安全に作業ができるようにする

自ら課題を発見し、自分の力で解決することができるようにする

インテリアに関する基礎的な知識や技術の向上を目指して、インテリア産業の発展に主体的かつ協働的に取り組む

科目 課題研究 家具制作

の目標:

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
・家具設計、制作方法、及び機械加工に関する知識を理解し、技術を習得する。 ・安全かつ正確、及び効率的な木材加工技術を理解し、身に付ける。	・市場調査・コンセプト立案に基づくデザイン・設計などの総合的な判断・表現を習得する。 ・安全かつ正確、及び効率的な木材加工技術を理解し、身に付ける。	・家具設計、制作方法、及び機械加工への関心と主体的かつ協働的に取組無態度を養い、技術を身に付ける。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	家具の設計方法を理解、習得させる。	・家具の歴史や市場の調査を行いながら、家具デザイン・制作の意味を学ぶ。 ・テーマ、コンセプトに基づき、アイデアスケッチを描く。	・家具の歴史や市場の動向について調査を行い家具デザイン・制作の意味の理解度。 ・テーマ、コンセプトに基づいたアイデアスケッチでの表現方法の習得度。	○	○	○	12
	家具の製作製図について理解、習得させる。	・仕口、接手、及び工法及び、構造や寸法などを考察して実使用可能な家具の製作図を描く。	・仕口、接手、及び工法及び、構造や寸法などを分かりやすく正確な家具図面の製作技術の習得度。	○	○	○	16
	スタディー模型の製作について、アイデアの検討方法を理解、習得させる。	・各自のアイデアに基づき1/5～1/10のスタディー模型を製作して、デザイン・設計の方向性を確認し、検討を重ねる。	・スタディー模型の製作技術を習得させ、それをもとに立体的・空間的なデザイン・設計を検証する技術の習得度。	○	○	○	12
	材料の木取り方法について理解、習得させる。	・木取りを通し、歩留まり、及び基礎的な木工機械の安全な使用法・特性などを学ぶ。	・材料を無駄ない歩留まりを考え、環境に配慮する意識を養いながら、基礎的な木工機械の安全な使用法・特性の習得度。	○	○		16
2 学 期	荒木取りの方法について理解、習得させる。	・木取りを通し、基礎的な木工機械の安全な使用法・特性などを学ぶ。	・基礎的な木工機械の安全で効率の良い使用法・特性などの習得度。	○	○		14
	墨付け・木作り方法について理解、習得させる。	・切断・切削等について、手加工や木工機械を用いて木づくりを行い、木工具や木工機械の安全な使用法・特性及びその活用などを学ぶ。	・木工具や木工機械の安全で効率の良い使用法・特性及びその活用などの習得度。	○	○	○	16
	手加工、及び機械加工の方法について理解、習得させる。	・仕口や接手などの部位について、切断・切削・穿孔等について、手工具、及び木工機械における加工を学ぶ。	・切断・切削・穿孔等について、手工具、及び木工機械における加工方法の習得度。	○	○	○	14
	組立て、及び接合方法について理解、習得させる。	・仕口等のはめあい等の調整を行い、仮組み行程、接着、圧縮についての方法を学ぶ。	・正確で効率的な仮組み、接着、圧縮についての方法の習得度。	○	○	○	16
3 学 期	木工塗装技術方法について理解、習得させる。	・家具塗装の一連の流れである素地調整・着色・下塗り・中塗り・仕上げ塗りを体得して学ぶ。	・素地調整・下塗り・着色・中塗り・仕上げ塗りについて、一連の家具塗装の技術の習得度。	○	○		16
	プレゼンテーションについて理解、習得させる。	・制作した家具について、テーマ・コンセプト、特徴、使用法などを分かりやすくかつ正確に他者に伝達できるようプレゼンテーションを学ぶ。	・テーマ・コンセプト、特徴、使用法などを分かりやすくかつ正確に他者に伝達する為の効果的なプレゼンテーション方法の習得度。	○	○	○	12
	3年間の集大成としてまとめ、卒展や校内展示等での伝達方法について理解、習得させる。	・卒展や校内展示において、各自の家具をテーマ・コンセプト、特徴、使用法などを分かりやすく、かつ正確に他者に伝達できるよう展示計画を行い、展示方法などを工夫して提案する。	・テーマ・コンセプト、特徴、使用法などを分かりやすく、かつ正確に他者に伝達する為の展示計画、及び展示技術の習得度。	○	○	○	12 合計 156

高等学校 令和7年度(3学年用)教科

单位数: 4 单位

の目標:

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期	店舗(飲食店)の設計に関する基礎知識を学ぶ 立地・条件設定 コンセプト立案	店舗(飲食店)の設計のポイント 用途地域や周辺環境について 建築物の構造についての基礎知識 立地や客層の設定について	・店舗の設計の基礎知識を身につけたか ・課題設定に対する視点が明確であり、コンセプトや設計図面に反映されているか。	○	○		12
	配置・レイアウトに関する基礎知識を学ぶ 平面のエスキース 外観のスケッチ CADの操作法	配置計画のポイント 店舗内のゾーニングについて CADソフト(Vectorworks)の使用法	・設定された敷地に立地条件が生かされた配置計画がされているか ・コンセプトが反映された合理的な平面計画が行われているか	○	○		16
	平面計画の詳細を学ぶ 厨房の計画 店内の配置 中間プレゼンテーション①	店舗内の動線計画 厨房の構成・配置 座席のレイアウト プレゼンテーションソフト使い方	・業態やコンセプトに沿った適切な動線や厨房の配置がされているか ・効果的なプレゼンテーションができたか 反応はどうであったか	○	○	○	16
	3DCGによる躯体のモデリングを学ぶ 什器のデザイン・設計	3Dデータに関する基礎知識 3Dモデリングソフト(Form-Z)の使用法 各種店舗什器の基礎知識	・各種3Dデータの違いや用途を理解したか ・効率的なデータの作成ができているか ・各種什器の違いについて理解したか	○	○		16
2 学期	3DCGの質感設定を学ぶ	モデリングした3Dデータをレンダリングソフトに取り入れ、色・反射・透明度などを考慮しながら質感の設定を行う	・3Dデータの構造について理解したか ・データのインポート方法を理解したか ・質感を決定する要素について理解したか ・必要とする質感が表現が実現できたか	○	○		16
	3DCGの光源設定を学ぶ	質感を設定した3Dデータに太陽光・環境光・室内照明などの各種光源を設定する	・光源設定の仕組みについて理解したか ・光源の設定やインポート方法を理解したか ・環境を決定する要素について理解したか ・必要とする光源が表現が実現できたか		○	○	20
	3DCG空間の環境設定を学ぶ	質感や光源を設定した3Dデータに、置かれた条件を考慮しながら背景を設定する	・3Dにおける環境について理解したか ・環境データの作成方法を理解したか ・必要とする背景が表現が実現できたか		○	○	20
	映像の動画の編集技術を学ぶ プレゼンテーションボードの作成	ウォークスルーアニメーションを制作、効果的な構成を考えながらPC上で映像編集を行う	・映像の編集技術の基礎を理解したか ・設計意図を表現する構成にできたか ・必要とする映像を得ることができたか	○	○		12
3 学期	プレゼンテーション用スライドの作成	プレゼンテーションソフトを利用しプレゼンテーションの視覚的効果を学ぶ	・テーマ・コンセプトなどを分かりやすくかつ正確に他者に伝達することができたか。	○	○		16
	プレゼンテーション準備	効果的な展示計画・プレゼンテーション方法を学ぶ	・テーマ・コンセプトなどを分かりやすくかつ正確に他者に伝達する為の効果的なプレゼンテーションが理解できているか。		○	○	8
	プレゼンテーション	卒展において店舗設計班として店舗の提案を行う そのための設営方法や展示計画を行う	・テーマ・コンセプトなどを分かりやすくかつ正確に他者に伝達する為の効果的なプレゼンテーションができるか。 ・卒業展示の方法など主体的に検討できているか。	○	○	○	4 合計 156

教科 工業(インテリア) の目標:
【知識及び技能】 インテリアの基礎的な知識や技術を習得し、作業工程を把握して安全に作業ができるようにする
【思考力、判断力、表現力等】 自ら課題を発見し、自分の力で解決することができるようにする
【学びに向かう力、人間性等】 インテリアに関する基礎的な知識や技術の向上を目指して、インテリア産業の発展に主体的かつ協動的に取り組む

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
インテリアに関する描写手法・表現、及び造形、プレゼンテーションにおける知識と技術を理解し、技術を習得する。	対象物の捉え方や造形力、伝達力などを総合的な思考、判断、表現について理解し、身に付ける。	描写表現・造形・伝達への関心と主体的かつ協動的に取り組む態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	クロッキーやスケッチ表現の演習を行い、短時間で対象物を捉える見方・考え方を理解、習得させる。	・人体やその部位・身の回りの日用品などを題材として、短時間での時間制約の中でクロッキーを行う。また、3面図などを描くなど、対象物を捉える考え方を学ぶ練習も行う。	・題材とする人体やその部位・身の回りの日用品などのクロッキー表現や3面図を描くことにより、短時間で的確に対象物を捉える考え方、及び技術の習得度。	○	○		21
	着色表現を行うことにより、有彩色を用いて空間・陰影・材質感等を表現する方法を理解、習得させる。	・数種の家具や植物などを構成して、想定した光源に基づいた空間・陰影・材質感等を設定し、透明水彩絵具を用いて着色表現の演習を行う。	・透明水彩絵具を用いての着色表現演習をもとに、想定した光源に基づいた陰影、材質感、空間等を設定し、家具や植物などをバランスよく構成する表現方法の習得度。	○	○	○	21
2 学 期	テーマに基づきコンセプトを立案し、イメージや世界観を各自で構想し、立体造形の表現の発想について理解、習得させる。	・各自が設定したテーマに基づきコンセプトを立案し、イメージや世界観をスケッチやスタディーモデルにて表現する。	・各自立案したテーマ・コンセプトに基づき、イメージや世界観をアイデアスケッチやスタディーモデルの制作により、自らの構想を確認するとともに、他者に的確に伝達する表現方法の習得度。	○	○		23
	立体構成について、テーマ・コンセプト・イメージ・世界観に基づき、材料や工法を工夫して適切に表現する方法を理解、習得させる。	・様々な材料を選択し、また用具や工法を工夫して、テーマ・コンセプトを伝達できるよう造形表現の基礎を学ぶ。	・テーマ・コンセプトを他者に伝達させるため、様々な材料を選択し、同時に用具や工法を工夫した、造形表現の習得度。	○	○	○	22
3 学 期	プレゼンテーションの方法について理解、習得させる。	・テーマ・コンセプトをまとめ、分かりやすいデザインのプレゼンテーションボードを作成する。	・テーマ・コンセプトなどをまとめ、デザインのプレゼンテーションボードを作成し、分かりやすく的確に他者に伝達する表現方法の習得度。	○	○	○	21
		・立体造形作品・プレゼンテーションボードに基づき、プレゼンテーションを実施して他者への伝達の演習を行なう。	・立体造形作品・プレゼンテーションボードを用いてプレゼンテーションを行い、分かりやすく的確に他者に伝達する表現方法の習得度。	○	○	○	9
							合計 117

高等学校 令和7年度(3学年用) 教科

教科: 工業(インテリア) 科目: インテリア実習A

対象学年組: 第 学年 インテリア科

教科担当者:

使用教科書: ()

教科 工業(インテリア)

の目標:

【知識及び技能】

インテリアの基礎的な知識や技術を習得し、作業工程を把握して安全に作業ができるようにする

【思考力、判断力、表現力等】

自ら課題を発見し、自分の力で解決することができるようにする

【学びに向かう力、人間性等】

インテリアに関する基礎的な知識や技術の向上を目指して、インテリア産業の発展に主体的かつ協動的に取り組む

科目 インテリア実習A

の目標:

工業(インテリア) 科目 インテリア実習A

単位数: 3 単位 (2パート・2サイクル)

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
・自身の知識・技術をポートフォリオを通じて適切に表現することができる。 ・インテリア空間における対象や事象を捉える色彩的・構成的な視点について理解を深め、効果的な色彩表現の知識と適切な素材構造の提案ができる。	・これまでに学んだ色彩の基礎知識をもとに、環境と色彩の関係に置き換え、表現の意図と創意工夫、デザインの働きなどについて考えるとともに、イメージした世界観から発想や構想を練ったり深めたりできる。	・課題の目的を的確に理解し、主体的に学習の幅を広げたり、制作手順を考えた上でより良い作品制作に取り組める。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	・各自がこれまでに行った課題や制作物を整理し、デジタルデータ化して保存させる。 ・整理したデジタルデータを活用し、DTP作業を行い、「ポートフォリオ」の作製する。	・各自が制作した作品の整理 ・撮影(作品の立体感が出る撮影) ・平面作品のスキャナーによる取込み	・撮影に主体的に取り組んでいるか ・DTP作業に取り組む姿勢 ・自ら新しいデザインを生み出し、意欲的に取り組むことができるか	○	○	○	21
	・デジタルデータを活用し、DTP作業を行い、「ポートフォリオ」の作製する。 ・デジタルデータの入稿方法について基礎的な知識を養わせる。	・平面作品のスキャナーによる取込み ・デジタルデータの入稿作業及び印刷	・DTP作業に取り組む姿勢 ・自ら新しいデザインを生み出し、意欲的に取り組むことができるか ・作品提出(指定された要綱が守られているか)	○	○	○	21
2 学 期	・写真や雑誌などから「室内空間」を選択して、デジタルデータにする。 デジタルデータをアートボードに転写する。 ・室内空間の着彩	・インテリアの構成を考え、題材選ぶ ・全体のイメージを崩さないように表現 ・インテリアのスタイルによって家具の種類、素材、色合いなどの違いを学び、インテリアコーディネートする。	・DTP作業に取り組む姿勢 ・インテリア空間を着彩の技術で表現できているか ・作品提出(指定された要綱が守られているか)	○	○	○	23
	・写真や雑誌などから「室内空間」を選択して、デジタルデータにする。 デジタルデータをアートボードに転写する。 ・室内空間の着彩	・インテリアの構成を考え、題材選ぶ ・全体のイメージを崩さないように表現 ・インテリアのスタイルによって家具の種類、素材、色合いなどの違いを学び、インテリアコーディネートする。	・DTP作業に取り組む姿勢 ・インテリア空間を着彩の技術で表現できているか ・作品提出(指定された要綱が守られているか)	○	○	○	22
3 学 期	プレゼンテーションの方法について理解、習得させる。	・テーマ・コンセプトをまとめる。	・テーマ・コンセプトなどをまとめ、分かりやすく確に他者に伝達する表現方法ができているか	○	○	○	21
		・作品のプレゼンテーションを実施して他者への伝達の演習を行なう。	・作品を用いてプレゼンテーションを行い、分かりやすく確に他者に伝達する表現方法ができているか	○	○	○	9
							合計 117

高等学校 令和7年度（3 学年用） 教科 工業（インテリア） 科目 インテリア実習B（色彩）

教 科： 工業（インテリア） 科 目： インテリア実習B（色彩） 単位数： 3 単位

対象学年組： 第 3 学年 インテリア科 4パート・2サイクル

教科担当者：

使用教科書：（ なし ）

教科 工業（インテリア） の目標：

【知 識 及 び 技 能】インテリアの基礎的な知識や技術を習得し、作業工程を把握して安全に作業できるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】色彩の基礎知識を環境に生かすための創意工夫などイメージした世界観から発想や構想を検討できる。

【学びに向かう力、人間性等】課題の目的を理解した上で全工程をイメージし、よりよい結果を想像し計画的に制作できる。

科目 インテリア実習B（色彩） の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
特定のインテリア空間における色彩計画を、使用目的や対象の趣味嗜好にあわせて、新鮮かつ効果的なデザインとして提案ができる。	色彩の理論としての知識を、具体的な色彩環境と対象者に寄り添いながら効果を検討分析し、デザイン提供者としての意思をもってデザイン展開できる。	色彩の成果物としての完成形をイメージして、実現のためのリサーチやコンセプト実現のための創意工夫、継続的な努力ができ、それらに主体的に取り組める。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	＜コンセプト作成＞ 使用目的に沿ったコンセプトの構築方法を学ぶ。	・ペルソナの設定とコンセプトを作成する。 ・デザイン展開のための資料を収集する。 ・コンセプトに沿ったラフスケッチを展開する。	・ペルソナに合わせたコンセプトが構築できている。 ・デザイン展開するための情報収集やスケッチを十分に行っている。	○	○	○	14
	＜デザイン作成＞ コンセプトに沿ったデザイン提案のための構成原理を学ぶ。	・ラフスケッチをもとに規則的なパターン構成となるテキスタイルデザインを展開する。	・テキスタイルデザインとして成り立つ構成となっている。 ・ペルソナに訴求できるデザインとなっている。	○	○	○	14
	＜色彩計画＞ パソコン作業に移行した際の操作を考慮した色彩計画の方法を学ぶ。	・アクリルガッシュによる下絵を作成する。 ・パソコンで色彩を抽出することを考慮した色彩計画をたてる。	・パソコン操作を考慮した色彩計画となっている。 ・テキスタイルデザインとして成り立っている。	○	○	○	15
	＜テキスタイルパターン展開＞ デザインや色彩の修正を行うパソコンの操作を習得する。	・下絵をパソコンに取り込み修正を行い、パターン展開する。 ・色校正を行いデータを調整する。 ・長尺に出力 ・プレゼンシートを作成	・パソコンによる的確な修正操作をマスターしている。 ・計画通りの色彩再現ができている。 ・適正なプレゼンシートが作成できている。	○	○	○	15
2 学 期	＜コンセプト作成＞ 使用目的に沿ったコンセプトの構築方法を学ぶ。	・ペルソナの設定とコンセプトを作成する。 ・デザイン展開のための資料を収集する。 ・コンセプトに沿ったラフスケッチを展開する。	・ペルソナに合わせたコンセプトが構築できている。 ・デザイン展開するための情報収集やスケッチを十分に行っている。	○	○	○	14
	＜デザイン作成＞ コンセプトに沿ったデザイン提案のための構成原理を学ぶ。	・ラフスケッチをもとに規則的なパターン構成となるテキスタイルデザインを展開する。	・テキスタイルデザインとして成り立つ構成となっている。 ・ペルソナに訴求できるデザインとなっている。	○	○	○	15
	＜色彩計画＞ パソコン作業に移行した際の操作を考慮した色彩計画の方法を学ぶ。	・アクリルガッシュによる下絵を作成する。 ・パソコンで色彩を抽出することを考慮した色彩計画をたてる。	・パソコン操作を考慮した色彩計画となっている。 ・テキスタイルデザインとして成り立っている。	○	○	○	15
3 学 期	＜テキスタイルパターン展開＞ デザインや色彩の修正を行うパソコンの操作を習得する。	・下絵をパソコンに取り込み修正を行い、パターン展開する。 ・色校正を行いデータを調整する。 ・長尺に出力 ・プレゼンシートを作成	・パソコンによる的確な修正操作をマスターしている。 ・計画通りの色彩再現ができている。 ・適正なプレゼンシートが作成できた。	○	○	○	15
							合計 117

教科: 工業(インテリア) 科目: インテリア実習B(デッサン)
対象学年組: 第 3 学年 インテリア科
教科担当者: ()
使用教科書: ()
教科 工業(インテリア) の目標:
【知識及び技能】 インテリアの基礎的な知識や技術を習得し、作業工程を把握して安全に作業ができるようにする
【思考力、判断力、表現力等】 自ら課題を発見し、自分の力で解決することができるようにする
【学びに向かう力、人間性等】 インテリアに関する基礎的な知識や技術の向上を目指して、インテリア産業の発展に主体的かつ協動的に取り組む
科目 インテリア実習B(デッサン) の目標:

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
デッサンに関する描写手法、構図・形態・空間、材質、陰影等の表現における知識と技術を理解し、習得する。	対象物の捉え方について工夫して思考し、他者への伝達などを総合的に判断し、表現する力を習得する。	描写表現についての関心、及び講評等を含め主体的かつ協動的に取組む態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	〈1 サイクル〉 デッサン演習を行い、より発展的に対象物を捉える見方・考え方を理解し、描写表現を習得させる。	・石膏像や石膏製幾何形体を対象物として、構図・形態感・陰影・材質感などを、より発展的に対象物を捉える見方・考え方を学ぶ。同時に美術大学進学などの進路対策について対応する。	・石膏像や石膏製幾何形体などを、構図・形態感・陰影・材質感などを踏まえて描くことにより、より発展的に対象物を捉える考え方、及び技術の習得度。	○	○		21
		・木材・金属・布・ガラスなどを素材に持つ身の回りの日用品などを対象物として、構図・形態感・陰影・材質感などを踏まえて、より発展的に対象物を捉える見方・考え方を学ぶ。同時に美術大学進学などの進路対策について対応する。	・木材・金属・布・ガラスなどを素材に持つ身の回りの日用品などを、構図・形態感・陰影・材質感などを踏まえて描くことにより、より発展的に対象物を捉える考え方、及び技術の習得度。	○	○	○	21
2 学 期	〈2 サイクル〉 デッサン演習を行い、より発展的に対象物を捉える見方・考え方を理解し、描写表現を習得させる。	・石膏像や石膏製幾何形体を対象物として、構図・形態感・陰影・材質感などを踏まえて、より発展的に対象物を捉える見方・考え方を学ぶ。同時に美術大学進学などの進路対策について対応する。	・石膏像や石膏製幾何形体などを、構図・形態感・陰影・材質感などを踏まえて描くことにより、より発展的に対象物を捉える考え方、及び技術の習得度。	○	○		23
		・木材・金属・布・ガラスなどを素材に持つ身の回りの日用品などを対象物として、構図・形態感・陰影・材質感などを踏まえて、より発展的に対象物を捉える見方・考え方を学ぶ。同時に美術大学進学などの進路対策について対応する。	・木材・金属・布・ガラスなどを素材に持つ身の回りの日用品などを、構図・形態感・陰影・材質感などを踏まえて描くことにより、より発展的に対象物を捉える考え方、及び技術の習得度。	○	○	○	22
3 学 期	デッサン課題におけるプレゼンテーション、及び講評を行い、他者への伝達方法と客観的に作品を捉える見方・考え方を理解、習得させる。	・デッサン課題におけるテーマ・コンセプトなどをまとめたプレゼンテーションを行い、分かりやすかつ的確に他者に伝達する表現方法を学ぶ。同時に美術大学進学などの進路対策について対応する。	・デッサン課題におけるテーマ・コンセプトなどをまとめたプレゼンテーションを行い、分かりやすかつ的確に他者に伝達する表現方法の習得度。	○	○	○	21
		・デッサン課題におけるお互いの作品の講評を行い、分かりやすかつ的確に他者に伝達する表現方法を学ぶ。同時に美術大学進学などの進路対策について対応する。	・デッサン課題におけるお互いの作品の講評を行い、分かりやすかつ的確に他者に伝達する表現方法の習得度。	○	○	○	9
							合計 117

高等学校 令和7年度（3学年用） 教科 工業（インテリア） 科目 インテリア実習B（施工）

教科： 工業（インテリア） 科目： インテリア実習B（施工） 単位数： 3 単位

対象学年組： 第 3 学年 インテリア科 4パート・2サイクル

教科担当者：

使用教科書：（ なし ）

教科 工業（インテリア） の目標：

- 【知識及び技能】インテリアの基礎的な知識や技術を習得し、作業工程を把握して安全に作業できるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】色彩の基礎知識を環境に生かすための創意工夫などイメージした世界観から発想や構想を検討できる。
- 【学びに向かう力、人間性等】課題の目的を理解した上で全工程をイメージし、よりよい結果を想像し計画的に制作できる。

科目 インテリア実習B（施工） の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
室内空間の構成について具体的なイメージを持ち理解することができる。 実際に室内空間の製作するための工程や技術を身につける	安全に配慮した作業とは何かを判断し、協動的に行うことができる。 効率的な作業を行うために必要なことを考え、主体的に行動できる	共同作業が必要な建築物の施工について、技術以外に必要な様々な要素を理解し、自ら学んでいくことができる

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	テーマの設定 限られた時間や材料、班員の能力等を考慮したうえで、何を作成するかをまとめる	すべての製作には、時間・費用・労力・材料等の条件があり、特に共同作業では必要になることを学ぶ 安全な作業とは何かを学ぶ	テーマを設定するにあたって十分なリサーチが必要性を検討することができたか 結果として課題として適切なテーマを選択することができたか	○	○	○	14
	対象の設計 実際に使われる場所や、必要とする資材、必要な技術、必要な時間等を含め、設計を行う	1820(幅)×910(奥行)×1800(高さ)の内装模型を実際に製作する。 製材・工具調整について	建築施工に必要な工具の知識と理解できているか 効率の良い部材の取り方や作業手順を考えることができたか	○	○	○	14
	部材の加工 設計図や部材加工表に基づき、必要な精度を保ちながら効率よく加工を行う	部材の加工(土台・柱・梁・間柱) 各種木材加工機械のの使用方法 仕口について 加工中の安全について	建築特有の加工法の理解や各工程において、道具に対する知識や技術を身に付けることができたか。 手順の因果関係を理解できたか。 安全に加工の作業を行うことができたか	○	○	○	15
	完成した部材を使い実際に組み立てる 完成したものについての検証・振り返り	組立・筋違取付・金物取付・根太・胴縁・野縁・耐震を考えた建築金物の知識 開口部(窓)取付 アルミサッシの寸法体系の理解	今回の制作が完成したうえで、施工に関する様々な視点を身につけることができたか 協力して安全な作業を行うことができたか	○	○	○	15
2 学 期	テーマの設定 限られた時間や材料、班員の能力等を考慮したうえで、何を作成するかをまとめる	すべての製作には、時間・費用・労力・材料等の条件があり、特に共同作業では必要になることを学ぶ 安全な作業とは何かを学ぶ	テーマを設定するにあたって十分なリサーチが必要性を検討することができたか 結果として課題として適切なテーマを選択することができたか	○	○	○	14
	対象の設計 実際に使われる場所や、必要とする資材、必要な技術、必要な時間等を含め、設計を行う	1820(幅)×910(奥行)×1800(高さ)の内装模型を実際に製作する。 製材・工具調整について	建築施工に必要な工具の知識と理解できているか 効率の良い部材の取り方や作業手順を考えることができたか	○	○	○	14
	部材の加工 設計図や部材加工表に基づき、必要な精度を保ちながら効率よく加工を行う	部材の加工(土台・柱・梁・間柱) 各種木材加工機械のの使用方法 仕口について 加工中の安全について	建築特有の加工法の理解や各工程において、道具に対する知識や技術を身に付けることができたか。 手順の因果関係を理解できたか。 安全に加工の作業を行うことができたか	○	○	○	15
	完成した部材を使い実際に組み立てる 完成したものについての検証・振り返り	組立・筋違取付・金物取付・根太・胴縁・野縁・耐震を考えた建築金物の知識 開口部(窓)取付 アルミサッシの寸法体系の理解	今回の制作が完成したうえで、施工に関する様々な視点を身につけることができたか 協力して安全な作業を行うことができたか	○	○	○	15
3 学 期	卒展に向けての プレゼンテーション	卒展での展示に向けて製作の概要をパネルにまとめる平面図・断面図・立面図をCADで整理製作風景の写真の整理・レイアウト	今回の施工事例を第3者に理解できるようにプレゼンテーションできたか	○	○	○	15
							合計 131

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期	<西洋 近代①>	01. デザイン史を学ぶということ 社会とデザインの関わり 02. 大量生産とデザイン 産業革命とアーツ・アンド・クラ フツ運動	【知識及び技能】 社会とデザインの関わり、デザインの発生理由 が理解できている。 デザインの形状としての特徴が理解できている。	○	○	○	8
	定期考査（中間）	03. 装飾とデザイン アール・ヌーヴォー 04. アカデミズムへの反発 ウィーン分離派 05. 近代デザインの意識 シカゴ派、キュビズム、ダダ	【思考力、判断力、表現力等】 過去と現代との相違点や共通点を柔軟に捉え、 デザイン形成を考えることができる。	○	○	○	8
	定期考査（期末）	06. 戦争とデザイン ロシア構成主義 07. モダンデザインへの挑戦 ドイツ工作連盟とバウハウス 08. スタイリングのデザイン アール・デコとストリウムラ	【学びに向かう力、人間性等】 過去の作品を通して、デザイナー、建築家への 興味・関心を持ち、理解を深めている。	○	○	○	8
	<西洋 近代②>	09. 現代様式の確立 インターナショナルスタイル と オーガニックデザイン 10. 現代生活と機能のデザイン スカンジナビアンモダン	【知識及び技能】 社会とデザインの関わり、デザインの発生理由 が理解できている。 デザインの形状としての特徴が理解できている。	○	○	○	8
2 学期	<西洋 原始、古代から近世①>	11. 芸術のはじまり 原始のデザイン 12. 古代文明のデザイン① エジプト、メソポタミア 13. 古代文明のデザイン② ギリシャ	【思考力、判断力、表現力等】 過去と現代との相違点や共通点を柔軟に捉え、 デザイン形成を考えることができる。	○	○	○	10
	定期考査（中間）	14. 都市国家と発明 ローマ 15. 宗教建築の芽生え ビザンチンとイスラム	【学びに向かう力、人間性等】 過去の作品を通して、デザイナー、建築家への 興味・関心を持ち、理解を深めている。	○	○	○	10
	定期考査（期末）	16. キリスト教のデザイン ロマネスクとゴシック 17. 古典への回帰 ルネッサンスとロマネスク	【学びに向かう力、人間性等】 過去の作品を通して、デザイナー、建築家への 興味・関心を持ち、理解を深めている。	○	○	○	8
	<西洋 原始、古代から近世②>	19. 権力とデザイン バロックとロココ 20. 新しい時代へ 新古典主義	【知識及び技能】 デザインの歴史が総合的に理解できている。 【思考力、判断力、表現力等】 デザイン発生の理由が包括的に想像できる。	○	○	○	18
3 学期	<現代のデザイン>	20. オリジナルとデザイン 21. デザインの多様化	【学びに向かう力、人間性等】 デザインの成立に関心を持ち、理解を深めている。	○	○	○	合計 78
	定期考査（学年末）						

インテリア装備

单位数: 2 单位

インテリアに関する基礎的な知識や技術の向上を目指して、インテリア産業の発展に主体的かつ協働的に取り組む

の目標:

[illegible]

工業(インテリア) 科目 インテリア技術A(水曜選択)

单位数: 2 单位

インテリア科

使用教科書：（ ）

の目標:

インテリアの基礎的な知識や技術を習得し、作業工程を把握して安全に作業ができるようにする

自ら課題を発見し、自分の力で解決することができるようにする

インテリアに関する基礎的な知識や技術の向上を目指して、インテリア産業の発展に主体的かつ協働的に取り組む

の目標・

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	・対象物や事象の捉え方を把握し、立体的なものの見方・考え方を理解して伝達表現方法を習得する。 ・講評や作品を検討し合い、様々な伝達表現について知る。	静物デッサン①(ボールペン使用)・講評	・身の回りにある日用品などを、黒色ボールペン等を用いて、構図・形態感・陰影・材質感などを踏まえて隠することなく描くことにより、より発展的に対象物を捉える考え方、及び技術の習得度。	○	○		16
		静物デッサン②(ホワイトレンドリング／白色鉛筆・黒色画用紙)・講評	・石膏像や石膏製幾何形体などを、白色鉛筆・黒色画用紙を用いて、構図・形態感・材質感などを踏まえて描くことにより、陰影による対象物の見え方発展的に対象物を捉える考え方、及び技術の習得度。	○	○	○	16
2 学 期	・対象物や事象の捉え方を把握し、立体的なものの見方・考え方を理解し、スケッチからインテリアデザインへ発展させ、伝達表現方法を習得する。 ・お互いの作品を検討し合い、様々な伝達表現について知る。	構成デッサン(鉛筆描写)・講評	・身の回りにある日用品などを、鉛筆等を用いて、構図・形態感・陰影・材質感などを踏まえて描くことにより、より発展的に対象物を捉える考え方、及び技術の習得度。	○	○		18
		着色(面分割表現)・講評	・前課題にて鉛筆描写を行った対象物について、不透明水彩(アクリルガッシュ)等を用いて、構図・形態感・陰影・材質感などを踏まえて描くことにより、より発展的に対象物を捉える考え方、及び技術の習得度。	○	○	○	18
3 学 期	・対象物や事象の捉え方を把握し、立体的なものの見方・考え方を理解し、立体感・空間感・陰影・材質感・固有色などを考慮し細部に至るまでの描写表現の幅を広げ、伝達表現方法を習得する。 ・講評や作品を検討し合い、様々な伝達表現について知る。	細密描写(鉛筆描写)・講評	・身の回りにある自然物などを、鉛筆等を用いて、構図・形態感・陰影・材質感などを踏まえて細密に描くことにより、より発展的に対象物を捉える考え方、及び技術の習得度。	○	○	○	10
							合計
							78

工業(インテリア) 科目 インテリア技術B(水曜選択)

单位数: 2 单位

インテリア科

教科 工業(インテリア)

の目標:

インテリアの基礎的な知識や技術を習得し、作業工程を把握して安全に作業ができるようにする

自ら課題を発見し、自分の力で解決することができるようにする

インテリアに関する基礎的な知識や技術の向上を目指して、インテリア産業の発展に主体的かつ協働的に取り組む

【知識及び技能】

の目標:

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
1 学 期	立体作品の制作(工芸祭で販売する作品を製作する)	・本体仮組み方法と基礎的技術を習得させる。 ・調整・接着方法と基礎的技術を習得させる。 ・工具管理の基礎的技術を習得させる。	・安全第一に作業出来き、基本的な工具の使い方を習得し、主体的に取組むことが出来る。 ・加工箇所の精度が出来ている。 ・期限を守っていることが出来る。	○	○	○	16
			・正確で効率的な仮組み、接着、圧締についての方法の習得度。	○	○	○	16
2 学 期	立体作品の制作(工芸祭で販売する作品を製作する) 校内で使うことのできる家具の共同制作を行う。(調査、計画)	塗装の一連の流れである素地調整・着色・下塗り・中塗り・仕上げ塗りを体得して学ぶ。	・素地調整・下塗り・着色・中塗り・仕上げ塗りについて、一連の塗装の技術の習得度。	○	○	○	12
		・使い勝手にあったスケッチ画を起こし、デザインを発展させる ・図面化し細部の検討する。	・切断・切削等について、手加工や木工機械を用いて木づくりを行い、木工具や木工機械の安全な使用法・特性及びその活用などを学ぶ。	○	○		12
		・木取りを通し、歩留まり、及び基礎的な木工機械の安全な使用法・特性などを学ぶ。	・材料を無駄ない歩留まりを考え、環境に配慮する意識を養いながら、基礎的な木工機械の安全な使用法・特性の習得度。		○	○	12
3 学 期	校内で使うことのできる家具の共同制作を行う(仕上工程)	・塗装の一連の流れである素地調整・着色・下塗り・中塗り・仕上げ塗りを体得して学ぶ。	・素地調整・下塗り・着色・中塗り・仕上げ塗りについて、一連の塗装の技術の習得度。	○	○	○	10
							合計

高等学校 令和7年度(3学年用)教科

工業(インテリア) 科目 インテリアコーディネーターB

单位数: 2 单位

インテリア科

使用教科書：（ ）

の目標:

インテリアの基礎的な知識や技術を習得し、作業工程を把握して安全に作業ができるようにする

自ら課題を発見し、自分の力で解決することができるようにする

インテリアに関する基礎的な知識や技術の向上を目指して、インテリア産業の発展に主体的かつ協働的に取り組む

の目標:

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
インテリアコーディネーターとして、インテリア(内装、家具、ファブリックス、照明器具、住宅設備等)に関する幅広い商品知識を持ち人それぞれの住環境の把握から提案できる基礎力・応用力の養成を図る。	インテリアコーディネーターとして、「技術」における分野から住まい手にとって快適な住空間を作るために適切な提言・助言知識、及び、技術を身につけさせる。	心地よさの感覚は人それぞれですが、好みの色や素材を使い、自分の趣味やライフスタイルに合った空間では気持ちよく過ごすことができます。「どんな風に暮らしたいか」、「こんな雰囲気的空間に住みたい」というアバウトな要望を具体的に住まい手のライフスタイルに合った住空間を提言・助言知識、及び、技術を出来る力を身につけさせる。

[illegible]

高等学校 令和7年度(3学年用) 教科

教科: 工業(インテリア) 科目: インテリア実習B(前期:ウッドクラフト・後期:構造力学)

対象学年組: 第 3 学年 インテリア科

教科担当者:

使用教科書: ()

教科 工業(インテリア)

の目標:

【知識及び技能】

インテリアの基礎的な知識や技術を習得し、作業工程を把握して安全に作業ができるようにする

【思考力、判断力、表現力等】

自ら課題を発見し、自分の力で解決することができるようにする

【学びに向かう力、人間性等】

インテリアに関する基礎的な知識や技術の向上を目指して、インテリア産業の発展に主体的かつ協働的に取り組む

科目 インテリア実習B(ウッドクラフト・構造力学) の目標:

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
・ウッドクラフト…使い方や遊び方を考慮し、木質系材料を使用したクラフト作品の制作を通し、素材の活用、加工方法を通じてものづくりへの興味と関心を高める。 ・構造力学…建築系進学者を対象に構造力学の基礎を学び、建築物の安全について興味と関心を高める。	・ウッドクラフト…アイデアを具体的に形のある作品にしてい中で、ウッドクラフトしてのコンセプト、木材加工をどのようにして、木の特性の表現を高めていく。 ・構造力学…力の流れが力学的にどのような状態にあるか直感的に判断・表現させる。	・ウッドクラフト…木という特性について作品がどう生かされたか関心、及び講評等を含め主体的かつ協働的に取組む態度を養う。 ・構造力学…身近にある建築物を注意深く観察させ、建築物の力の流れが力学的にどのような特徴があるか直感的に判断・表現させる。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	使い方や遊び方を考慮し、木質系材料を使用したウッドクラフト作品の制作を通し、素材の活用、加工方法を通じてものづくりへの興味と関心を高める	・アイデアを具体的に形のある作品にしてい中で、ウッドクラフトしてのコンセプト、木材加工をどのようにして、木の特性の表現を高めていく	・クラフトについて調査を行いデザイン・制作の意 味の理解度 ・テーマ、コンセプトに基づいたアイデアスケッ チでの表現方法の習得度 ・スタディー模型の製作技術を習得させ、それをも とに立体的・空間的なデザイン・設計を検証する 技術の習得度	○	○		18
		・木取りを通し、歩留まり、及び基礎的 な木工機械の安全な使用法・特性な どを学ぶ。	・材料を無駄ない歩留まりを考え、環境に配慮す る意識を養いながら、基礎的な木工機械の安全 な使用法・特性の習得度 ・テーマ、コンセプトに基づいたアイデアをウッド クラフトの作品として表現できている。	○	○	○	24
2 学 期	建築系進学者を対象に構造力学の基 礎を学び、建築物の安全について興 味と関心を高める。	・支点と荷重の種類 ・反力について ・静定ばりの応力に ついて(単純ばりの応力、片持ちばり の応力)	・支点と節点、荷重および外力に関心を持ち、構 造物と荷重および外力と力学的な扱いについて 主体的かつ協働的に取組み、理解できているか。 ・単純梁や片持梁に関心を持ち、その解法に関心 を持ち、主体的かつ協働的に取組み、理解でき ているか。	○	○		23
		・静定ラーメンの応力について(片持 ちばり系ラーメンの応力、単純ばり系 ラーメンの応力) ・静定トラスの応力について・力の流 れが力学的にどのような状態にある か直感的に判断・表現させる。	・静定トラスに関心を持ち、その解法について主 体的かつ協働的に取組み、理解できているか。	○	○	○	22
3 学 期	部材に関する力学について応力度や 断面の力学的な性質を踏まえて理解 する。また、断面一次モーメント、断面 二次モーメント、断面係数、断面二次 半径および断面の主軸について理解 できる。	・材料の性質について(応力度、変 形、弾性係数、許容応力度) ・身近なもの(ゴム、スポンジなど)を 使い、手作業を通して、変形を感覚 (視覚)的に把握させ部材に生じる力 とその種類を考察させる。	・部材の断面設計に関心を持ち、部材に生じる応 力度および部材の強さについてに主体的かつ協 働的に取組み、理解できているか。	○	○	○	21
		・断面の性質について(断面1次モー メント2次モーメント、断面係数、応力 度) ・部材に生じる力の図は、関数とグラ フの関係に基づいていることを考察さ せる。	・部材の断面設計に関心を持ち、部材に生じる応 力度および部材の強さについてに主体的かつ協 働的に取組み、理解できているか。	○	○	○	9
							合計 117

単元の具体的な指導目標		指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学期	第2章 インテリアの歴史	・日本、西洋の歴史 ・出題頻度説明 ・要点確認 ・過去問題に取り組み、解説をおこなう	・テキストや過去問題に主体的に取り組むことができているか。 ・過去問題の結果や、要点の確認結果から、項目の内容を理解できているか。	○	○	○	8
	第3章 インテリア計画	・人間工学、寸法計画 ・住居空間の設計 ・健康、安全、バリアフリーのための計画 ・出題頻度説明 ・要点確認 ・過去問題に取り組み、解説をおこなう	・テキストや過去問題に主体的に取り組むことができているか。 ・過去問題の結果や、要点の確認結果から、項目の内容を理解できているか。	○	○	○	8
	第4章 色彩と造形	・色彩 ・造形 ・出題頻度説明 ・要点確認 ・過去問題に取り組み、解説をおこなう	・テキストや過去問題に主体的に取り組むことができているか。 ・過去問題の結果や、要点の確認結果から、項目の内容を理解できているか。	○	○	○	6
	第5章 家具	・家具 ・家具金物・出題頻度説明 ・要点確認 ・過去問題に取り組み、解説をおこなう	・テキストや過去問題に主体的に取り組むことができているか。 ・過去問題の結果や、要点の確認結果から、項目の内容を理解できているか。	○	○	○	10
	第6章 ウィンドウトリートメント	・ウィンドウトリートメント ・出題頻度説明 ・要点確認 ・過去問題に取り組み、解説をおこなう	・テキストや過去問題に主体的に取り組むことができているか。 ・過去問題の結果や、要点の確認結果から、項目の内容を理解できているか。	○	○	○	8
2 学期	第7章 インテリア販売 第1章 各種エレメント	・コンサルティング ・積算・見積り・マーケティング ・模擬問題演習（問題と解説） ・検定申込の確認をおこなう ・実際の試験に近い問題に取り組み、解説をおこなう	・テキストや過去問題に主体的に取り組むことができているか。 ・模擬問題演習の結果から、インテリアコーディネーター検定試験の内容の理解しているか。	○	○	○	10
	試験のまとめ	・検定試験後の自己採点 ・2次試験の概要と対策 ・プランニング指導。過去問題から解法と演習を行う。	・インテリアコーディネーター検定試験で学習した、エレメントの特徴等を理解してインテリアのプランニングができるようになったか。	○	○	○	8
	2次試験対策	・2次試験 論文・プレゼンテーション対策（立面図、展開図、パース図、アイソメ、アクソメ）	・インテリアコーディネーター検定試験に関する知識を習得し、クライアントの要望を踏まえた具体例をプレゼンテーションできているか。 ・プレゼンテーションに関する技能を活かして、内容を相手に説明することができるか。	○	○	○	6
3 学期	2次試験対策	・2次試験 論文・プレゼンテーション対策の模擬試験を行う。 ・2次試験後の模範解答作成。	・インテリアに関する基礎的な知識を踏まえて、相手にプランの内容を説明することができるか。	○	○	○	8
	インテリア演習	・クライアントとデザイナーの打ち合わせを想定したロールプレイ。	・まとめとして、クライアントの気持ちに寄り添ったヒアリングを行いインテリアの提案をすることができたか。	○	○	○	6
							合計 78

年間授業計画 新様式例

高等学校 令和7年度（3 学年用） 教科 工業（インテリア） 科目

教 科： 工業（インテリア） 科 目： インテリアコーディネート演習（火曜選択） 単位数： 2 単位

対象学年組：第 3 学年 インテリア科

教科担当者：

使用教科書：（ ）

教科 工業（インテリア） の目標：

【知 識 及 び 技 能】 インテリアの基礎的な知識や技術を習得し、作業工程を把握して安全に作業ができるようにする

【思考力、判断力、表現力等】 自ら課題を発見し、自分の力で解決することができるようにする

【学びに向かう力、人間性等】 インテリアに関する基礎的な知識や技術の向上を目指して、インテリア産業の発展に主体的かつ協動的に取り組む

科目 インテリアコーディネート演習（火曜選択） の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
・ インテリア空間の計画に必要な様式や系統に関する歴史的背景や特徴、家族構成や立地といった住環境の計画に関わる知識を総合的に理解する。 ・ 一般的な家具や動線に必要なヒューマンスケールを体得し、1/12スケール模型に変換できる。	・ 提案をより正確に伝達するための適当な技術を選択し、効果的に表現する。 ・ 実際の技術や様式を緻密に図面や模型に再現しようとする表現力を養う。	インテリア空間の表現力の向上を目指して自ら学び、工業の発展に主体的かつ協動的に取り組む態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
1 学 期	・ インテリア様式について系統とその特徴を理解する。 ・ 初期設計につなげるコンセプト設定と基となるスタイルを理解する	・ インテリア空間の様式スタイル ・ 家族像、住宅の形式、規模、立地、現代のライフスタイルの傾向からコンセプト設定	・ コンセプトとしたい様式スタイルに関する調査と、写真のコラージュからの分析をまとめたレポートから理解・考察度をはかる ・ コンセプトと初期設計の乖離点が見受けられないか	○		○	6
	・ 様式に添った提案になるよう細部の構成要素や設定が表現されるよう促す ・ 表現技術の向上	・ イメージスケッチ(床壁2面が表現されたベース)の作成 ・ 平面、立面(2面)、家具図といったインテリア図面の作成	・ 提案の意図を伝達できるイメージ表現となっているか。 ・ ラフスケッチの中にスケールが落とし込まれているか。スケールに違和感がないか。 ・ 図面作成の基本的な知識を有しているか	○	○	○	8
		・ CADによるインテリア図面の作成	・ 模型作り、プレゼンテーションの素材となる図面を作成する知識技能を有しているか	○	○		6
	・ 模型製作を通して建築の構成要素と施工を実践的に獲得する。	・ 模型ベース（床、壁2面）の作成	・ 壁紙・開口部・床材・建具といった建築的な要素に関して模型に表現されているか ・ 1/12スケールとしての細部の作りこみがあるか ・ コンセプトに基づいた材料選びがなされているか	○	○	○	8
	・ 互いの提案、プレゼンテーションを評価する立場から、自身の提案を客観視し、計画への取り組み意識を高める。	・ 中間プレゼンテーション	・ 多角的な視点で互いの作品を評価し伝達できる。 ・ コンセプトに至るロジックや提案に説得力があるか、理解を得ようとする姿勢がある発表か ・ 質疑応答に対する態度に敬意があるか ・ プレゼンテーション資料の充実度			○	4
2 学 期		・ 家具製作	・ イメージベースや図面に基づいた家具を製作し配置されているか ・ コンセプト様式に添った家具となっているか	○	○	○	8
	・ 模型製作を通して建築の構成要素と施工を実践的に獲得する。	・ 小物製作	・ 初期設計での家族像や生活の営みを考慮した小物の作りこみがあるか ・ 実際の小物を再現しようとする工夫があるか	○	○	○	8
		・ カーテン・照明製作	・ 生活様式や立地を考慮したカーテン形態、照明量・配置となっているか ・ 実物を再現しようとする工夫があるか ・ 模型の提出			○	8
	・ 効果的なプレゼンとなる演出について興味関心をもって意欲的に取り組む	・ 撮影を含むプレゼンテーションに必要な素材製作 ・ レタッチ作業	・ 模型からコンセプトを効果的に伝達しようとする撮影工夫があるか ・ 作成に必要なDTP作業ができているか	○	○	○	8
3 学 期	・ 効果的なプレゼンとなる演出について興味関心をもって意欲的に取り組む	・ プレゼンテーションボード製作	・ 作成に必要なDTP作業ができているか	○	○	○	8
	・ 互いの提案、プレゼンテーションを評価する立場から、自身の提案を客観視し、次回制作活動への取り組み意識を高める。	・ 最終プレゼンテーション ・ 卒展における住宅設計班として設営方法や展示計画	・ 多角的な視点で互いの作品を評価し伝達できる。 ・ コンセプトに至るロジックや提案に説得力があるか、理解を得ようとする姿勢がある発表か ・ 質疑応答に対する態度に敬意があるか ・ プレゼンテーション資料の充実度	○	○	○	6
							合計 78

年間授業計画 新様式例

高等学校 令和7年度（3 学年用） 教科 工業（インテリア） 科目

教 科： 工業（インテリア） 科 目： インテリア技術C（木曜選択） 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 3 学年 インテリア科

教科担当者：

使用教科書：（ ）

教科 工業（インテリア） の目標：

【知 識 及 び 技 能】 インテリアの基礎的な知識や技術を習得し、作業工程を把握して安全に作業ができるようにする

【思考力、判断力、表現力等】 自ら課題を発見し、自分の力で解決することができるようにする

【学びに向かう力、人間性等】 インテリアに関する基礎的な知識や技術の向上を目指して、インテリア産業の発展に主体的かつ協動的に取り組む

科目 インテリア技術C（木曜選択） の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
設計競技テーマの社会背景や課題に関する知識を理解し、問題点とその解決方法を考察することができる。 設計競技で求められる表現方法でプレゼンテーションを作成する技術を養う。	アイディアの構築からプレゼンテーションまで、一連のデザインワークを自己管理し、表現することができる力を身に着ける。	社会背景へ関心を持ち、デザインワークと関連付け主体的かつ協動的に取り組む態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	デザインコンペ参加 A	・テーマにもとづき問題点を探りコンセプトを立案する。 ・コンセプトにもとづきデザインによる問題解決方法を探る。 ・具体的なデザイン提案を作成する。 ・コンセプトの重要性を知り、デザインをブラッシュアップする。 ・効果的な提案方法を見つけ、デザイン素材を製作する。 ・プレゼンテーションツールを作成する。	・設計競技締め切りから逆算したスケジュールを設定し今後の行動指針とできる。 ・設計競技テーマを基に情報収集や社会背景の調査分析からコンセプトを導き出すためのロジックを組み立てることができる。	○		○	6
			・コンセプトに基づき具体的なデザイン提案ができる。		○		8
			・設計競技規定に添った表現方法で、効果的に提案をプレゼンテーションできるよう素材を製作する。 ・設計競技規定に則った素材が準備できているか。	○	○		8
	プレゼンテーション 講評	・テーマやコンセプトについて、わかりやすい伝達表現方法を習得する。 ・お互いの作品を検討し合い、様々な伝達表現について知る。	・多角的な視点で互いの作品を評価し伝達できる。 ・コンセプトに至るロジックや提案に説得力があるか、理解を得ようとする姿勢がある発表か ・質疑応答に対する態度に敬意があるか ・プレゼンテーション資料の充実度	○	○	○	6
2 学 期	デザインコンペ参加 B	・テーマにもとづき問題点を探りコンセプトを立案する。 ・コンセプトにもとづきデザインによる問題解決方法を探る。 ・具体的なデザイン提案を作成する。 ・コンセプトの重要性を知り、デザインをブラッシュアップする。 ・効果的な提案方法を見つけ、デザイン素材を製作する。 ・プレゼンテーションツールを作成する。	・設計競技締め切りから逆算したスケジュールを設定し今後の行動指針とできる。 ・設計競技テーマを基に情報収集や社会背景の調査分析からコンセプトを導き出すためのロジックを組み立てることができる。	○		○	7
			・コンセプトに基づき具体的なデザイン提案ができる。		○		8
			・設計競技規定に添った表現方法で、効果的に提案をプレゼンテーションできるよう素材を製作する。 ・設計競技規定に則った素材が準備できているか。	○	○		8
	プレゼンテーション 講評	・テーマやコンセプトについて、わかりやすい伝達表現方法を習得する。 ・お互いの作品を検討し合い、様々な伝達表現について知る。	・多角的な視点で互いの作品を評価し伝達できる。 ・コンセプトに至るロジックや提案に説得力があるか、理解を得ようとする姿勢がある発表か ・質疑応答に対する態度に敬意があるか ・プレゼンテーション資料の充実度	○	○	○	7
3 学 期	インテリアにおける プレゼンテーション演習 講評	・インテリアデザインに関する理解をもとに演習を行なう。 ・テーマやコンセプトについて、わかりやすい伝達表現方法を習得する。 ・お互いの作品を検討し合い、様々な伝達表現について知る。	・テーマを基に情報収集や社会背景の調査分析からコンセプトを導き出すためのロジックを組み立てることができる。	○		○	6
			・コンセプトに基づき具体的なデザイン提案ができる。		○		8
			・効果的に提案をプレゼンテーションできるよう素材を製作できる。	○	○		6
			・多角的な視点で互いの作品を評価し伝達できる。 ・コンセプトに至るロジックや提案に説得力があるか、理解を得ようとする姿勢がある発表か	○	○	○	合計
							78